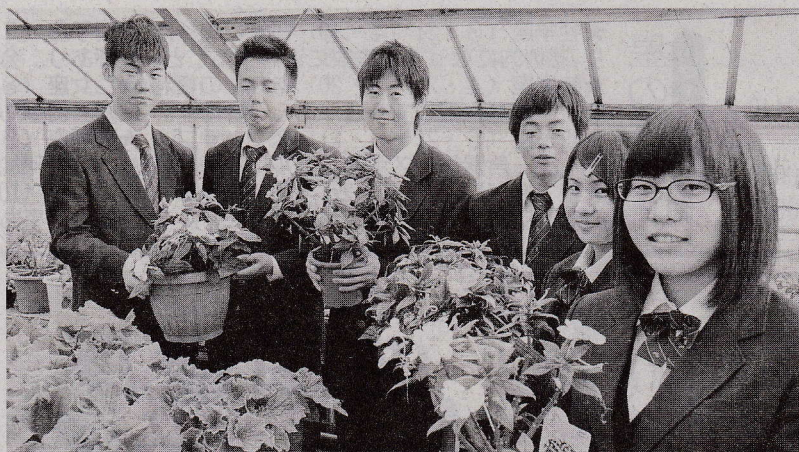


「チーム・フローラ・フォトニクス」のメンバー
 青森県南部町の県立名久井農業高校で9日



花の力で被災地復興

地球未来賞 青森・名久井農高チーム

食料・水・環境の分野で問題解決に取り組む個人や団体を顕彰する「第4回毎日地球未来賞」に、草花を活用して、東日本大震災からの復興支援活動にあたる青森県立名久井農業高校（青森県南部町）の「TEAM FLORA PHOTONIX（チーム・フローラ・フォトニクス）」が選ばれた。（1面参照）

2009年4月に設立。名久井農高の園芸科学科と環境システム科の2、3年生12人が所属し、授業の一環として課題研究に取り組む。名久井農高は青森県八戸市の郊外にある。東日本大震災では八戸市も高さ6・2メートルの津波に襲われた。名勝地・種差海岸では、環境省が準絶滅危惧種に指定するサクラソウの群生地が海水につかった。

他にも、水に微細な気泡を含ませて土中の塩分を落とす技術を考案して花壇を塩害したり、岩手県内の仮設住宅で空気の浄化効果がある鉢植えの花を設置したりする活動を行う。代表で3年の佐々木愛さん（17）は「これから花の力で被災地の人々の心を少しでも癒やしたい」と話す。

振興のために、藻場の再生にも取り組む。同じく「クボタ賞」の特定非営利活動法人「学生耕作隊」は20代のメンバーが主体となり、山口県宇部市の中山間地で農業に取り組む。耕作放棄されてきた茶畑を再生したほか、カンボジアの農村では、地元の住民が生計を立てられるよう農作物の加工を支援してきた。

チーム・フローラ・フォトニクスは震災約1カ月後からサクラソウの保護に着手した。希少な種を残すために、海岸を管理していた県の許可を得て人工授粉をして、種の採取に成功した。

海岸は13年5月に三陸復興国立公園に編入された。チームは、採取した種からできた株を校内で栽培し続けるとともに、大学の研究者と連携し、群生地での自生状況の調査や人工授粉による保護に取り組む。

「クボタ賞」に選ばれた特定非営利活動法人「黒潮実感センター」は、高知県西南端の柏島で、約1000種の魚が生息する自然環境を守る活動を展開する。豊かな海を実感してもらうための体験学習やエコツアーを開催しながら、地元漁業の

次世代応援賞に選ばれた広島県神石高原町の県立油木高校では、過疎化が進む地域を活性化するため、「ミツバチプロジェクト」として、衰退した養蜂技術の復活に取り組んでいる。

は八戸市も高さ6・2メートルの津波に襲われた。名勝地・種差海岸では、環境省が準絶滅危惧種に指定するサクラソウの群生地が海水につかった。

チーム・フローラ・フォトニクスは震災約1カ月後からサクラソウの保護に着手した。希少な種を残すために、海岸を管理していた県の許可を得て人工授粉をして、種の採取に成功した。

「クボタ賞」に選ばれた特定非営利活動法人「黒潮実感センター」は、高知県西南端の柏島で、約1000種の魚が生息する自然環境を守る活動を展開する。豊かな海を実感してもらうための体験学習やエコツアーを開催しながら、地元漁業の

次世代応援賞に選ばれた広島県神石高原町の県立油木高校では、過疎化が進む地域を活性化するため、「ミツバチプロジェクト」として、衰退した養蜂技術の復活に取り組んでいる。

【遠藤孝康、写真も】